

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1295100026		
法人名	社会福祉法人 八光聴		
事業所名	多古グループホーム		
所在地	千葉県香取郡多古町南玉造460-81		
自己評価作成日	令和5年4月10日	評価結果市町村受理日	令和5年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和5年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長引く感染症の影響で行動が制限されているなかにあっても家族との関係性を大事にし地域とのかかわりも継続していきたいと考えている。感染症が落ち着いた時期に家族との面会や外出を楽しんでもらい、ドライブや散歩で近所の風景を懐かしんでもらっている。外に出て積極的な交流が難しいならば周囲の環境を整えようと考え庭や畑を整備し法人内他施設の方との交流を図っている。庭の桜の木の下で花をめでたり、涼みながらお茶を楽しんだりしている。季節野菜を生や漬物にして楽しんだり、しその実漬けやふきのとう味噌なども利用者者と職員一緒に楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が緩和の中での感染者が増えている地域もあり、社会が少しずつ元の生活に戻りつつある中でも、まだ、マスク着用の所も多く高齢者施設では、特に気を付けており、施設長が先頭で環境整備に取り組んで、職員も利用者が普段の生活を楽しめる様と色々アイデアを出し取り組まれている。家族の面会も庭の木陰でお茶を楽しんだり、畑で取れた野菜の漬物等を楽しまれ、法人の他施設との交流も積極的に支援されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に事業所理念を掲げ、管理者・職員ともに共有し意識したケアを心掛けるよう努力している。コロナ禍のもとではなかなか思うように実践できていないのが現実である。	長引いたコロナ禍で、思うように実践できなかった事が少しずつ管理者、職員が意識を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者個々のなじみのある関係については継続できるよう努めている。移動スーパーや行きつけの美容室を利用するなど関係が途絶えないように工夫しているがコロナ禍以前のような関係には戻っていないのが現状。	コロナ禍前にはまだ戻ってはいないが、スーパーや美容室等へ出かける工夫をし、交流が途絶えない様に支援を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響のため外部との接点は少なくなっているが、運営推進会議などは感染症が下火になった隙間をうかがいながら開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の状況下、運営推進会議自体が思うように開催できない。少ない会議の中で意見交換を行いサービス向上に活かせるように努めている。	家族には毎月お便りで、利用者の状況を報告し、意見や要望も電話でも直接話をしている。少ない会議の中で意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々の活動の中で町の保健福祉課に相談したり提案を受けたりしている。地域の会議にもできる限り出席できるように調整している。	役所とは電話や窓口で相談や提案を受けたりしている。地域の会議には積極的に参加し情報の共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束にあたることはない。「身体拘束とは何か」を職員全体で意識し「これはどうなのか」といった不安なことは申し送り時などを利用して相談したりお互いに声を掛け合ったりしている。	身体拘束等は有りません。日頃から内部研修を行い職員全員で意識し不安な事は申し送りを利用し相談したりお互いに声をかけあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないという共通の意識をもってケアに取り組んでいる。虐待が何故・何時起きやすいのかを考え言葉がけにも気を付け人格を尊重している。		

〔評価機関〕

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所としては個々の必要性に応じて活用できている。職員全体としては学ぶ機会が少なく知識的には不十分。個々が学んで得た知識をミーティング時などに話し合い共通の知識化するように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は可能な限り施設内外や利用者の様子を実際に見て理解を深めてもらえるよう努めている。改定については運営推進会議の議題として説明し、理解してもらえるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は電話での相談はもとより通院時や面会時にも聞き取り、できる限り速やかに対応するよう努めている。家族の意見や要望については職員間で共有し運営やケアに反映している。	長引いたコロナ禍で家族会等は開催できませんでしたが、意見や要望は面会時や電話や手紙等で聞き取り、できる限りケアに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングの際に職員の意見や提案を取り上げ話し合うようにしている。また個人面談を設け話しやすい環境を作っている。	日頃から職員の意見が言い易い環境が有り職員会議やミーティング時等意見や提案を取り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の際などに職場環境や条件等の意見を取り上げている。希望による休みを取りやすくしたり連続の勤務を調整して働きやすい環境を作っている。残業がほとんどない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のなか研修を受ける機会は少なくなっているのが現状だが、研修に参加する際は無理のないように勤務の調整等を行っている。本人の希望を聞いたり、職員間で研修参加を薦めるような会話がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流したい気持ちは持ち続けているが実際には難しい。サービスの質向上のためにも取り組んでいきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい居心地の良い環境づくりに努めている。本人の様子をみながら無理強いすることなく困っていることや不安な気持ちに寄り添うようにしている。本人と職員が一緒に考えていくようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ち(不安や要望)に対しよく話し合い、できる範囲で希望に添えるように対応を決めている。希望に沿うことが難しい時は代案を提案できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人に新しい環境に慣れていただくことから始めている。本人の様子をよく観察し職員間で話し合い本人や家族の必要としているサービスを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者のできることを見極め、できる力を奪わず役割を持った生活ができるように努めている。職員は寄り添い耳を傾け家族のように思ってもらえるように心掛け、職員も利用者から力をもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を取りながら面会や電話での交流・自宅で家族と過ごす時間を作るなどに努めている。また担当職員が毎月近況報告書を作成し利用者の様子や思いを伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室・かかりつけの病医院への通院・自宅付近へのドライブなど馴染みのものが途切れないように支援している。多古広報を見ることも楽しみにしているようだ。	新型コロナもまだ、完全に収束したわけではなく、特に高齢者であり、感染対策は今までと同じく、車で自宅付近へドライブや行きつけの美容室、本人が望む事に応えられる様支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを大切にしている。関係性を細かに観察しトラブルが発生しないよう座席を変えたり職員がフォローするなど工夫をしている。居室にこもりがちな方には孤立しないようにレクに誘うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後亡くなってしまった方は自宅を訪問し家族と話をしたりしている。以前の利用者の関係者から連絡をいただいたり、新規の申し込みがあるのは有難いことと感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で希望や意向を直接聞き取るようにしている。また何気ない日常の会話の中から本人の希望や意向を把握できるように努めている。本人だったらどう思う(感じる)かを大事にしている。	日頃の会話の中から本人の希望や思いを把握できるよう努め、家族とも相談したり本人のためできる事を検討し支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や家族・本人の話の中から生活歴や馴染みの暮らしを把握している。また以前利用の事業者や担当ケアマネに問い合わせたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・ミーティング・申し送りノートなどを利用し情報交換を密に行っている。変わったことがあったときは記録に残し職員全体で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍のもと関係者間の連絡を密にとることは難しい。家族との電話のやり取りや訪問看護サービスの機会を利用し報告や意見を伺い、職員間で話し合いを持ちケアプランの見直しを行っている。	担当者職員や家族と電話等でのやり取り、関係者等の連絡を密にし、家族の理解を得てケアプランの見直し支援に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・通院記録・温度版等を使用し身体状況や生活状況を職員間で共有している。ミーティングの場でこの方にどんなケアが必要か話し合いみんなで考えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じて可能な限りの対応を心掛けています。対応が困難な場合もあるが本人や家族にとって何がよいことなのかを考えながら柔軟に支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については把握しきれていない。このコロナ禍では協働も困難であるが、本人が望むことについては可能な限り支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	感染症対策に努めながら受診を行っている。必要な時には家族の同行を求め共通理解を深めるようにしている。終末期のケアについても家族や主治医・訪問看護師との話し合いの場を持つようにしている。	感染症対策をしっかりと取りながら、通院支援を行っている。場合によっては家族の同行を求め共通の理解を深めるように努め予防接種や歯科も定期的に通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に健康観察をしてもらっている。情報は口頭や温度版を利用している。内出血や細かな状態の変化なども記録したりメモにして相談している。緊急時には電話で相談し訪問を受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1年間を通じ入院者がいなかった。体調不良や緊急の受診が必要な時には訪問看護師を通して病院に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに家族と話し合いを持つようにしている。看護師がいないことや夜間帯は職員が1名になり十分な対応ができるか不安であること等説明し希望をうかがっている。気持ちに変化のあった時はすぐに見直しができるようにしている。	終末期のケアについても家族や主治医・訪問看護師との話し合いの場を持ち、早めに家族と話し合いを持ち、家族の協力を得ながら希望を伺い、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生に備え研修等を行っているが知識や技術がその場でしっかりと実践できるか不安に感じている職員が多いと思われる。繰り返しの訓練が必要と感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については定期的に訓練を行っている。荒天時や夜間について想定し法人内他施設との協力体制を整えている。地震や風水害・それに伴う長期にわたる断水・停電については不安が残る。	消防の協力を得て火災については、定期的に避難訓練を実施している。地震や風水害に伴う長期の断水・停電等の不安を感じている。	法人内の他施設と協力体制も出来ているので、発電機や、蓄電池、井戸水等の体制を期待します。

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの方にあつた声の大きさや分かりやすい言葉を選ぶなどの工夫。声掛けに対しての反応(表情や態度)を見ながらの配慮。人格を尊重し羞恥心に配慮した言葉かけや対応を心掛けている。	利用者一人ひとりに合った声の大きさや言葉を選び、一人ひとりを尊重した支援をおこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の意見を聞き、自分で何かを希望したり選ぶ機会を意識して作っている。「なんでもいい」と言う方には選択肢を少なくしてみたり会話で工夫してみたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせて日中の過ごし方等柔軟に対応し「時間だから」「順番だから」とこちらの都合を押し付けず、本人の希望や体調を尊重している。職員全体が「利用者本位」の気持ちで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などに鏡の前で身だしなみを整える。着たい服が自分で選べるように声かけし、必要に応じてアドバイスをする。理容の時にはどのくらいの長さを希望かどんなスタイルを希望か本人に確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は宅配の食材を利用。メニューの変更や形態を変えるなど食べやすいように工夫している。行事食やおやつなどで昔なじみのものを楽しめるよう工夫している。(フキ味噌や漬物づくりなど)	外食等の機会は減ったが、日々の食事は宅配の食材を利用し、メニューの変更や形態を変えるなど食べやすいよう工夫をしている。また、畑の野菜を調理し昔馴染みの一品フキ味噌など工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量のチェックを行い状態を把握。食事が摂れない時は本人の好きなもの、食べやすいもの等工夫している。個々の状態を職員全体で把握し相談しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎予防のためにも起床時と毎食後口腔ケアを行っている。自分で十分にできない方には声かけや仕上げ磨きを行い清潔に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し個々の排泄リズムに合わせた声掛けを工夫している。本人の使いやすい気持ちのいい排泄用品を選び、必要に応じて見直したりしながら支援している。	職員が利用者の状況を把握し、失敗やオムツの使用を減らし、個々のリズムに合わせ、されげなくトイレでの排泄に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は多く主治医や看護師に相談している。薬に頼らざるを得ない方も多いが、始めから薬に頼るのではなく水分や食べ物（乳酸菌を摂る・バナナを食べるなど）の取り方、運動などの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日等を固定せず声かけで行っている。入りたくない拒否があった時は時間を変えたり翌日に変更したり臨機応変に行っている。個々の特性や体調に合わせた入浴方法を検討している。	入浴は利用者のペースで行い、拒否があった時は時間を変えたり、臨機応変に対応し、気持ち良く入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の工夫をしたり安眠できるよう支援している。起床や就床の時間はその方のペースに任せ無理強いすることはない。休息についても居室で休む方気に入った場所で過ごす方など個々の自由を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬については職員に周知するようにしており変更があった場合は申し送りノートやミーティングで知らせている。利用者の状態を記録に残し主治医に報告。見直しにつながることもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どのような生活がしたいのか？できることは何か？どんな援助が必要か？職員全体で気にかけて関わりを持っている。日々の会話や家族からの聞き取りで得た情報は職員で共有する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿ってできることは行うようにしている。家族の協力を得ながら外出等も行っている。近所へドライブに出かけたり普段は出かけないような場所に散歩に行ったりしている。	長引くコロナ禍で、皆での外出はまだ制限があるが、家族の協力を得ながら外出等も行っている。また小グループで車で近くのお花見や買い物等も個々の希望に沿った支援が、少しずつでき利用者の笑顔に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的には預かることになっているが自分でお金を支払う機会を作るようにしている。病院の支払いや買い物の際にお財布を渡して職員と一緒に支払いをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは希望があればできるようにしている。一緒にポストまで投函に行くこともできる。電話は相手の都合を考えて時間をずらしてもらうこともあるが基本的には自由にかけよう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の清潔を心掛け気持ちよく過ごしてもらえるようにしている。外出の機会が減っている分、庭の花や窓からの景色また行事や日々の暮らしの中で季節を感じてもらえるように工夫している。	施設長をはじめスタッフが利用者と花を植えたり野菜を作ったり、テラスも施設長がDIYで修理し、安心して使用でき、共有スペースから見る事も出来、暮らしの中で季節を感じてもらえる様工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所は自由だがリビングで過ごす時間が多い。1人になりたいときには外の見える窓辺に行ったり自室で過ごしたり玄関先まで出る方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものをおいたり家族の写真を飾ったり、カレンダーやお気に入りのポスターを飾っている人もいる。居室担当が中心となり本人や家族と相談しながら気持ちよく過ごせるよう工夫している。	居室は、各自馴染みのある品物がおかれ、家族と居室担当者が相談しながら気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表示をしてわかりやすくしている。転倒防止のために動線の安全を確保し、手すりの利用はもちろん椅子や家具などの配置を工夫しながら安全に自由に動けるよう工夫している。		